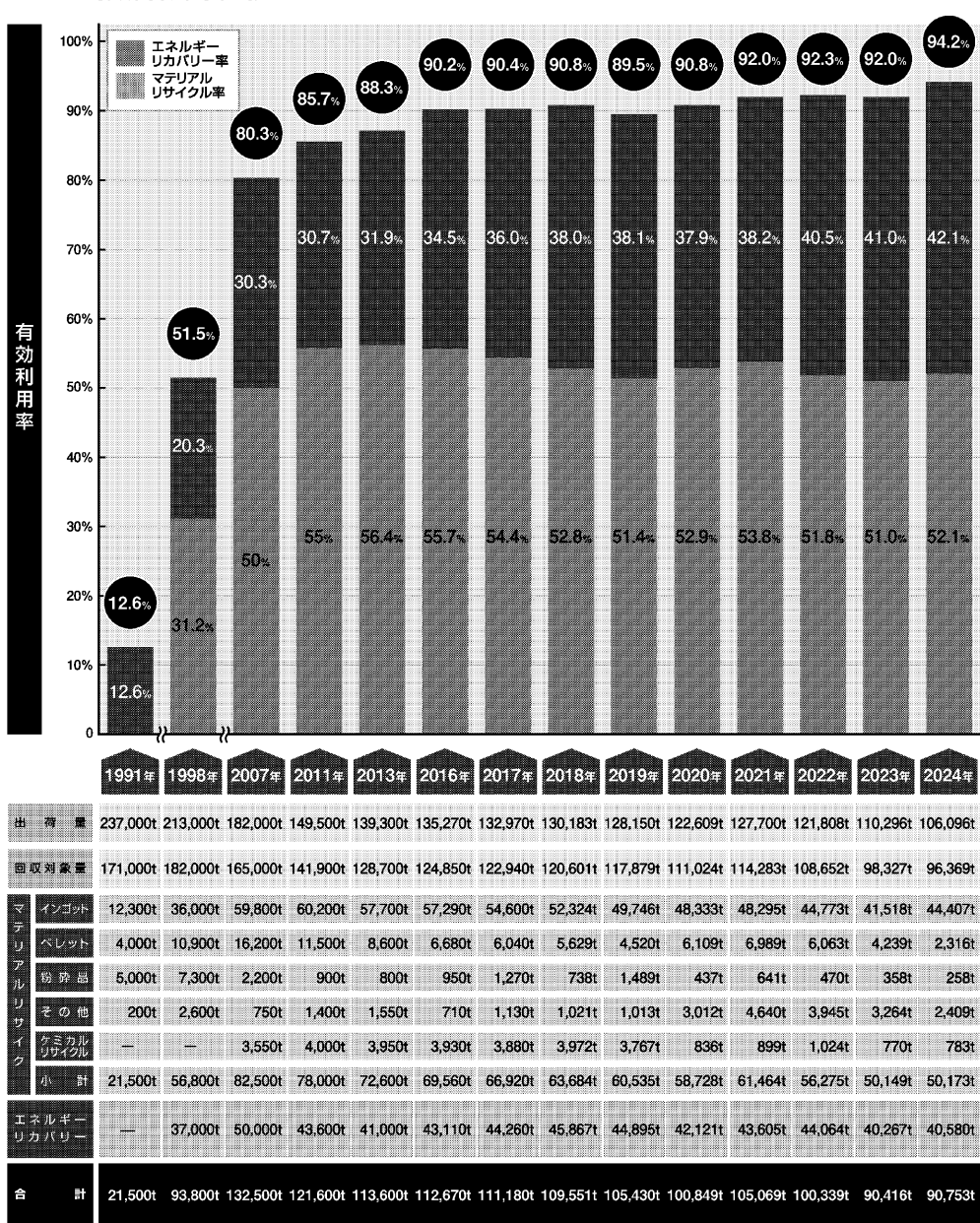


ビーズ法発泡スチロール

発泡スチロール協会

トップクラス誇る有効利用率「EPS」

EPSの有効利用率推移



包装材の選択 生産プロセス全体で考察を

環境性能高いEPS

EPSメーカーなどが参加する業界団体の発泡スチロール協会(JEPSA、東京都千代田区)によると、使用済みEPSを原料として再利用するマテリアルリサイクルと、焼却した熱を利用するエネルギーリカバリーを合わせた有効利用率は9割超の水準を数年間維持している。プラスチック全体で見てもPETボトルと並びトップクラスだが、JEPSAは現状に満足せず「資源としての有効利用率の向上」を掲げ100%を目指す。環境省の「プラスチック資源循環戦略」や「海洋プラスチックごみ対策アクション」に協力するなど意欲的だ。

脱プラトレンドに石

オランダの試験、認証企業SGS Intrn

一般的な認識を覆すものだ。実際、プラスチック包装を紙に置き換えることが必ずしも持続可能な解決策ではないことを示す研究や報告が増えている。

ライフサイクル分析の結果は、包装材料の選択では、生産プロセス全体を通じて環境への影響全体に注意を払う必要があることを示している。

健康にも影響なし

EPSは健康に影響を及ぼさない。EPSの製造は、食品衛生法のボジ

保冷容器の環境負荷比較

小型保冷容器	EPS	段ボール	考察
EPSと段ボールのライフサイクル全体にわたる環境影響を統合評価	 ×2.91		段ボール製保冷容器の環境フットプリントは、EPS保冷容器の2.91倍
気候変動 - 合計	 ×1.41		段ボール製保冷容器は、大気中の温室効果ガスの排出を通じ、潜在的な地球温暖化に1.41倍影響している
生態毒性：淡水～水	 ×201		環境中に放出される有害物質が淡水生物に与える影響は、段ボール製保冷容器はEPSの201倍大きい
天然化石燃料の枯渇	 ×1.33		EPS保冷容器は、天然化石燃料の枯渇を1.33分の1に抑える

出典:LCA包装箱の目安 - SGS Intrn BV - Cool Box Smallの調査結果 - オランダのリサイクル数値2023

EPSを正しく知って

蔓延する誤解

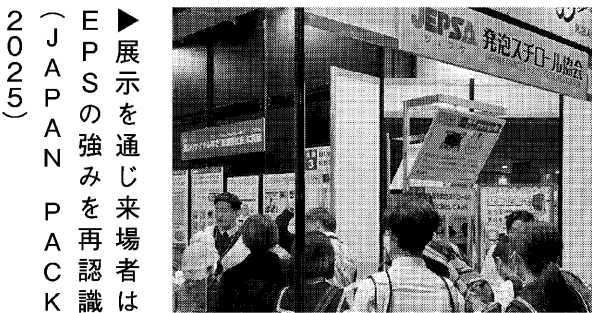
EPSの国内出荷は1990年ごろをピークに減少傾向で、現在はピーク時の約半分程度だ。要因について、JEPSAは「2000年代当時はユザーである製造業の海外生産シフトの影響が大きかった。近年はEPSから段ボールへの移行が進んでいる」という。背景には「プラスチックは悪」という社会イメー

ジがあり、その誤解がEPSにも影響した形だ。その結果「ユザーは、本当はEPSを使用した方が使用を躊躇している」と指摘する。こうした動きに歯止めをかけるため、JEPSAはEPSに対する正しい理解の普及と啓発に力を入れている。国内外の関係者団体やリサイクル関係者との連携・協力により、EPS市場の活性化や再資源化のさらなる

展示会や啓発活動でアピール

さまざまな取り組み

JEPSAは情報発信活動にも注力する。包装関連の「JAPAN PACK 2025(日本包装産業展)」や各種産業が集まる「エコプロ2025」などの展示会に出展したほか、全国の自治体・リサイクルセンターへの啓発ポスター配布、全国のJEPSA会員企業の配達車と営業車への啓発ステッカー提示、学校への「発泡スチロールセット」配布などに取り組んでいる。

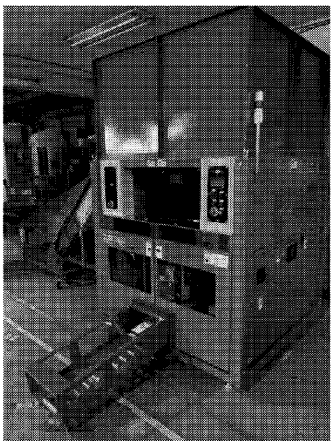


展示会では、JEPSAブースを訪れた大手家電メーカー設計者や環境部門担当者や話した。その中で、EPS使用に関する本音として「業界方針で減らせと言わざるを得ないが、EPSは環境に良いと思う。回収の仕組み次第だ」「EPSは設計しやすく使いたい。捨てたらベナルティーなどの対策を講じるのがよ

い」「EPSは使いたい、業界として減らす方向にあり、悔しい」「EPSを使いたいが減ってきている。世界的な回収の仕組みが必要」「これまでのEPSの高いマテリアルリサイクル率を知らなかった」などのコメントが出たという。

国際活動も進める。循環型経済への転換、サブライチェーンマネジメントのグローバル化が進む中、特に欧米から発せられる、容器包装プラスチックに対する規制などの動きに対し、タイムリーな連携の重要性が高まっており、JEPSAはアジアにおける地域組織「AMEPS(アジアEPS生産者機)」の主要メンバーとして各国と情報交換、連携を行っている。25年11月には中国杭州市で開催された年次総会に出席、EU規制に対応するため、さらなるマテリアルリサイクルの促進が必要であること等を確認した。

リサイクル促すために 減容機導入を助成



JEPSAはEPSプラ資源循環の促進や海洋プラごみの低減を目的に、設備助成の活動も実施している。最近の事例としては、大手家電量販店コジマの千葉県集配センター(エスライン船橋センター)の熱減容機導入への助成などがある。導入したのは、山本製作所(山形県天童市)製減容機「RE-E502」。砕いたEPSを電熱ヒーターで溶かすことで、50分の1に減容できる。冷却が不要で、簡単に良質なリサイクル原料に戻せることが特徴だ。こうした助成活動を通じ、「環境に優しい」EPSのイメージを社会に浸透させたい考えだ。

発泡スチロール(EPS)の優れた特性で地球環境を守ります。

発泡スチロールは、

ほとんどが単一素材であるため分別が容易で、
熱や溶剤・圧縮により体積を減らす減容が可能であり、
リサイクル特性に優れています!

発泡スチロール協会 **JEPSA** (ジェブサ)

〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町 2-20 翔和秋葉原ビル6F
【TEL】03-3861-9046 【FAX】03-3861-0096 【URL】https://www.jepsa.jp/ 【E-mail】jepssa@jepssa.jp

